



日刊薬業

発行所
株式会社 薬業時報社
 東京都千代田区神田 神保町2-36
 稲岡ビル ☎101 ☎(265)7751(代)
 大阪支局
 大阪市東区道修町4-6-1
 新芝川ビル ☎541 ☎(231)7061(直)

購読料金 3ヵ月12,500円
 半年23,400円 1年43,600円
 振替 東京3-23208番
 (日刊,但し土・日・祝祭日休刊)

昭和五十三年十月十一日(水曜日) 第五〇〇四号

スモン救済で収益力を

田辺製薬 平林社長談 独べ社からは復元要請

田辺製薬の平林忠雄社長はこのほど本紙記者と会見し
 ①スモン問題②海外市場と提携企業の動向③新薬の開発状
 況—など同社の現況についてあらまし次のように語った。

①事実の究明と患者の救済は別だ、と考えているので、
 鑑定の結果明らかにならぬと判った患者さんは救済しなけ
 ればならない。ところが東京地裁の可部和解は密室鑑定で
 フェアでない。この和解案で原告が一举に千人も増えるな
 んておかしなことだ。水俣の例をみると底なし沼の感があ
 り、その二の舞いになってはいけない。はっきり原告であ
 るか否かを認定できる条件が必要であり、収拾できる方途
 で終止符を打たなければならぬ。国もチバガイギーも、
 こうした点に気づきはじめてようだ。当社としては補償に
 応じられるよう、収益力を高める努力を続けていく。②海
 外市場の開拓に鋭意取り組んでいるが、「ヘルベッサ」
 に続いて「セスデン」「イノリン」も出せる見通しにある。
 業務提携面では、C・H・ペーリンガー社からは、もとの
 かたちに戻してほしいとの要望が出ている。輸入も製品開
 発も日本ペーリンガーがやる、ということでも五十五年末ま
 での契約になっているわけだが、うまくいかないことがわ
 かったであろう。シンテックス社とは、当社がやらないも
 のについては、他社でどうぞーということになっている。
 ウエルカム社については、たしかに売上額は上がっていた
 が利益率は低く、さしたる影響は残っていない。③新薬開
 発は独自性のあるものを出すのが当社の方針である。これ
 まではなかった抗生物質、制がん剤についても自社開発で研
 究が進んでおり、いずれ申請の運びになろう。制がん剤に
 ついてはすでに特許を申請した。

英ウエルカムが診断用薬で新会社

9月の外資状況

厚生省薬務局は六日、九月の外資企業株式取得、技術提携状況を発表した。株式取得七件、技術援助契約締結五件。

(第三種郵便物認可)

業 刊 日

〔株式取得〕▽四日付IIメディカル・インコーポレイテッド(米国)はメディカル・ファースト社(東京、医療用機械器具の買入、輸出入、販売)を新設。資本金二百五十万円、外資比率一〇〇%▽十二日付IIダイナテック・コーポレイション(米国)は日本ダイテック(東京、医療用具の製造、輸出入、販売)を新設。資本金二千五百万円、外資比率一〇〇%▽十二日付IIユニオン・カーバイド・コーポレイション(米国)はユニオン・カーバイド・メディカル・ジャパン(東京、医薬品・部外品、医療用具の製造、輸出入、販売)を新設。資本金一千万円、外資比率一〇〇%▽十六日付IIアリ・アルサバハ他四件(クウェート)は日本アラブ財務産業コンサルティング(東京、医療用機器、薬品等輸出入、販売)の設立新株五〇%を取得。資本金二千五百万円、取得価額千二百五十万円▽二十一日付IIシーメンス・ベタイリグンゲン・アー・ゲー(スイス)は日本シーメンスの旧株を譲受。外資比率は現在五一・一六%から取得後六三・九九%に変更。取得価額一億千八百万二千八百円▽二十一日付IIザ・ウエルカム・ファウンデーション・リミテッド(英国)はウエルカム・ダイアグノスティックス・ジャパン(大阪、医薬品・医療用具の製造、購入、販売、輸出入)を新設。資本金百万円、外資比率一〇〇%▽二十六日付II FRAサージフィックス・インク(米国)は日本FRAサージフィックスの増資新株を取得。資本金二千万円から三千万円に変更。外資比率六〇%、取得価額六百万円。

〔技術提携〕▽一日付IIアーマー・インターナショナル・カンパニー(米国)↓バレーイ・ダイアル・ジャパン。化粧品、制汗剤の製造に関する技術。契約期間一九七八年一月一日から一九八〇年十二月三十一日▽八日付IIアプルトン・ペーパーズ・インコーポレイテッド(米国)↓日本エヌ・シー・アール。カプセル並びにカプセルの製造および利用に関する技術。昭和五十三年七月一日から六十二年七月十二日まで。以降一年毎に自動延長▽十八日付II IMSリミテッド(米国)↓日本メディカル・サプライ。血液試料採取管ホルダの製造技術。認可日から一九八七年十月九日▽十九日付II A・H・ロビンス・カンパニー・インコーポレイテッド(米国)↓科研化学、商標権の使用許諾。認可日から昭和五十七年三月一日▽二十一日付IIアプルトン・ペーパーズ・インコーポレイテッド(米国)↓協和醸酵工業。マイクロカプセル製造の技術。五十三年七月一日から六十四年八月二十一日。

(2) 昭和53年10月11日(水)

京都府薬
アンケート

零売に適するアズノール錠など

京都府薬剤師会は従来から開局会員の利潤確保と薬剤師職能の積極的發揮の意味から「薬局製剤」の一層の活用を推奨、推せん製剤を決める一方、処方用薬のあっせんを行ってきているが、その一環としてこのほど「薬局製剤・意見と希望アンケート」を実施、結果を集計した。

それによると、アンケート対象百軒のうち回答があったのは四十八軒で、うち二十四が「薬局製剤を活用している」、二十が「していない」と答えている。回答のなかったところはおおむね「していない」と推測できるため、全体の三〇%未満が活用店舗とみられる。次に「よく売れる製剤」は①感冒剤十一号②鎮痛剤七号③複方アスピリンカフェイン散④健胃剤⑤ジフェンヒドラミンワレリル尿素散など。また「もっと売りたい製剤」として①ロートエキスパペリンアネステミン散②イオウサリチール酸チアントール軟膏③カイニン酸サントニン散④葛根湯。「零売に適するもの」として①アズノール錠②ポンタール③ナイスレートカプセル④コンパントリンなどが多く回答された。なお、一か月間の一店舗の薬局製剤販売個数は平均百三十二個で、金額にすると七万四千二百六十円となっている。

全商連 新旧の「一物二価」解消策求める

医薬全商連の岩本輝男専務理事は五日、全商連事務所にて記者会見を行い、全商連の当面の基本政策は①殺虫剤問題の対応策②業界安定対策③組織の強化策―を三本柱として、向う三年間でこれらの政策についてひとつの路線を固めたい、と語り、三つの基本政策について具体的な肉づけを行った。一方、三十日(月)に開かれる中央流通懇小委員会では末端市場での新・旧製品の「一物二価」を解消するため、メーカー側に「包装、容量の変更」か、または「ペナルティを含めた管理責任の遂行」かのいずれかの態度決定を迫り、結論を出したい旨を明らかにした。基本政策の中で、とくに殺虫剤問題に対しては「薬局・薬店が部外品を排除し、医薬品に絞って扱うという思い切った施策をとらないと問題解決につながらないのではないか」といった問題提起を行った。また大衆薬の浮上作戦では、大衆薬のテレビCMに問題点があるとして、日薬、全薬協、全商連の三者で委員会を作り、テレビCMのあり方を研究し、改善を要求していく、と語った。

中央薬審 16日、生物製剤特別部会

中央薬事審議会生物学的製剤特別部会(福見秀雄部会長)は十六日(月)午後二時から厚生省で開かれる。議題は一般試験法B中の標準百日せきワクチンの改正。

生産、販売、購入業務の統合へ

日 医 工 12 月、関連企業を統合し新発足

日本医薬品工業Ⅸ（富山市、田村四郎社長、資本金三億円）は十二月一日付で、田村社長が代表を兼任する系列企業群であるⅧ田村薬品（富山市、資本金百万円）Ⅷ日医工（同、四千五百万円）Ⅷ日医工物産（同、三百五十万円）Ⅷ内外薬学研究所（同、一千万円）の四社と合併統合することになった。合併形態は田村薬品を除く四社を解散し、債権債務を田村薬品が引き継ぐが、田村薬品は十二月一日から社名を「日本医薬品工業Ⅸ」に改め、役員陣も横すべりすることから、実質的にはグループ企業の本医薬品工業への一本化となる。日本医薬品工業は昨年十一月決算（年一回）が売上高五十二億七千二百万円、従業員二百八十人の中堅医家向けメーカーで、これまで販売活動は日医工、原資材・バルクの購入は日医工物産と内外薬学研究所にそれぞれ分散していたもので、同社では、今回の合併統合により、生産・販売・資材購入の諸活動を統合、トータル管理システム化することにより強化、拡充をはかり、将来計画している株式市場への上場に備えたい考えである。合併後の資本金は三億五千三百六十万円、従業員は三百九十人となる。

薬学会 22 日、近畿支部総会開く

第二十八回日本薬学会近畿支部総会および支部大会は、二十二日（日）午前九時から武庫川女子大薬学部（西宮市枝川町）で開催される。一般演題は合成化学、薬剤学など十二部会が五会場に分かれて計百三十七題が発表される。また病院薬学部会シンポジウムは午後三時半から A 会場で「医療における薬学の応用と現状—製剤の生物薬剤学的評価」をテーマに、総論Ⅱ京大薬学部・瀬崎仁教授、「吸収を主体とする坐剤の動向」Ⅱ大阪市大病院・川邑年四郎薬剤部長、「製剤のミニ化における製造要因とバイオアベイラビリティとの関係」Ⅱ塩野義製薬製造部・高岸靖氏が発表される。特別講演は午後一時から京大医学部・井村裕夫教授が「ペプチドホルモン製剤の臨床応用について」をテーマに演述、引き続き同二時から支部総会が開かれる。

薬学会
薬理学会

19・20 日、共催で薬物活性シンポジウム

日本薬学会、日本薬理学会共催による第七回薬物活性シンポジウムが十九（木）、二十（金）の両日、東京・星薬科大学で開催される。シンポジウムでは特別講演として「尿細管機能の生理並びに生化学分析」酒井文徳教授（東大医学部薬理学教室）、また最近問題となっている薬物による種々の感覚障害（聴覚、味覚、嗅覚障害）をテーマとしたパネルディスカッションも企画されている。

漢方エキス剤の輸入販売開始

順興薬品 台湾の順天堂薬廠と資本提携し

台湾の医薬品トップメーカーである順天堂薬廠股份有限公司の漢方エキス剤がこの十月から日本国内で発売された。発売したのは順興薬品工業株式会社（栗原敏郎代表取締役社長）で、九月末までに輸入承認許可を得た医療用（薬価未収載）三十品目、一般用三十七品目を販売する。順興薬品は順天堂薬廠と米・ロスアンゼルス市のブライオン・コーポレーションとの間で七月二十三日付で資本提携を行っており、順天堂薬廠の漢方エキス剤が今後、同社を窓口として日本国内に流通することになる。今回新発売されたエキス剤は順天堂薬廠の創立者である許鴻源博士が理事長をしている台湾必安研究所の原料品質チェックを受けているなど生薬原料に一級品を使っていることが特徴である。同社は説明している。このため、国内漢方メーカーが発売していない六味地黄丸、清心連子飲（いずれも効能は排尿困難時緩和）などに当面は力点を置くことにしている。医療用は次回追補収載で薬価基準に収載する意向で収載以後販促を活性化する。販売については当面は直販体制を堅持することにしており、ダイレクト・メールによる受注が中心となる模様。

一方順天堂薬廠側は日本市場進出と合わせて日本向け製品専用の工場を新設、既に稼働している。稼働能力は月産約五トンでこの能力からみて初年度は約十億円の売上目標を立てている。同時に栗原社長は現在の漢方は難解すぎるとして、簡便で症状に合った処方が行えるようなテキスト類作成も行っており、薬剤師向けに販売する方針。

また米・ブライオン社は順天堂薬廠製品を輸入、米国内ではカプセル形態の健康食品として販売しており、順興薬品も将来はこの健康食品を輸入・販売する構えである。

エーザイ 「イーミックス―E」新発売

エーザイはこのほど、新酸化防止剤「イーミックス―E」を新発売した。これは天然ビタミンE一〇%、アミノ酸の一種であるアラニンを含む安定な乳化液で、①添加食品には表示の義務、使用の制限がない②耐熱性、耐光性にすぐれている③乳化液のため水分を含む食品にも容易に混合、分散する―などの特長がある。包装は一カートンが1kg×十五本（プラボトル）で、価格は1kgにつき四千円。

ロート製薬 Vロートクールなど価格改定

ロート製薬は一日、Vロートクールなど三品目の目薬の価格改定を実施した。▽Vロートクール（再販品）A 価五百円、B 価三百七十五円▽子どもVロート（再販品）四百円、三百円▽サルファロート（一般品）五百五十円、四百十二円。

バイエル社の胃腸内糖吸収低下剤

微生物起源のバイエル社の新薬 Bay-5421 は真性糖尿、肥満症、高脂血症などの疾患において炭水化物の吸収を遅らせるために有効であると考えられる。七人のボランティアに 100g の白糖と 200mg の Bay-5421 を同時に与えたところ、血中グルコースの初期上昇および白糖の蓄積後に通常観察される食後の急降下を阻害した。この製品の適用については、不完全吸収された糖が、結腸バクテリアにより代謝されるため大量にガスが発生するという欠点を持つため、その分割引いて考えなければならぬ。

局方外医薬品製造許可承認品目

印 特審品目、印 総合
 感胃剤、印 生薬漢方製剤
 印 解熱鎮痛剤

- 七月十七日 (一般用医薬品) (続)
 - ▽アラメゾン H
 - 軟膏 Ⅱ その他の外皮用薬 (荒川長太郎) □ 香蘇散料
 - エキス (細粒) (松浦製薬) □ 同シール (同) ▽ ザ
 - ッスル P 坐剤 Ⅱ 痔疾用剤 (中外医薬生産) □ 葛根湯
 - エキス顆粒「MT」 (松本製薬工業) ▽ ポラキノ
 - ルトップ坐剤 Ⅱ 痔疾用剤 (天藤製薬) ▽ 同軟膏 Ⅱ 同
 - (同) □ KP エキス錠 防風通聖散料 (鐘紡) □ 防風
 - 通聖散料 エキス錠 (同) □ 桂枝茯苓湯 エキス顆粒 (ハ
 - ンキュー) (阪急共栄物産) □ 阪本の小青竜湯 エキ
 - ス顆粒 (阪本製薬) ▽ 東邦健胃固腸丸 Ⅱ 健胃消化剤
 - (東邦薬品工業) □ アキョウ (阿膠) (堀江生薬)
 - カッコウ (広藿香) (同) □ ゴカヒ (五加皮) (同)
 - シツリシ (蒺藜子) (同) □ ニウコウ (乳香) (同)
 - ヨモギ (艾葉) (同) □ 羚羊角 (山下正巳) □ 同
 - 末 (同) □ 小柴胡湯 (三星) ▽ ワークロミン錠 Ⅱ 鎮
- 痛鎮痒収斂消炎剤 (湧永薬品)
 - 七月二十一日 (一般用医薬品)
 - ▽トラベルミン顆粒
 - Ⅱ 鎮うん剤 (エーザイ) ▽ ホットクリア Ⅱ 鎮痛鎮
 - 痒収斂消炎剤 (鈴木日本堂) ▽ 煉剤月中仙 Ⅱ 同 (日
 - 協製薬) ○ ▼ ケロリン (内外薬品商会) ▽ アイト
 - ン Ⅱ 眼科用剤 (東亜薬品) ▽ ゆきほん Ⅱ 鎮痛鎮痒収
 - 斂消炎剤 (同) ▽ きずソフトテープ Ⅱ 創傷保護剤 新
 - 新薬品工業) ▽ 新々テープ Ⅱ 同 (同) ▽ ワット Ⅱ 鎮
 - 痛鎮痒収斂消炎剤 (福寿製薬) ▽ キーテープ K Ⅱ 創
 - 傷保護剤 (第一薬品) □ 健風 (北宝薬品) □ 爽明仙
 - (同) □ やまじるしニンジン粉末 (山印醸造) □ や
 - まじるし蔘精 KA (同) □ 同 NA (同) □ 津村漢方
 - 黄連解毒湯 エキス顆粒 (津村順天堂) □ 四物湯 エキ
 - ス分包細粒 (日本製薬工業)

〈業時報社の出版案内〉 振替東京 3-23208
 本社 / 〒101 東京都千代田区神田神保町2-36北神ビル
 TEL (03) 265-7751 40
 支局 / 〒541 大阪市東区道徳町4-6-1 新芝川ビル
 TEL (03) 231-7061 40



新刊!!

改訂新版

薬事監視指導関係通知集 '78

厚生省薬務局監視指導課 監修
 ● A5判 定価 3200円 (送料 300円)

本書は、医薬品・化粧品・用具等の製造・販売業の監視指導上必要な
 関連通達二九六を、業態別、事項別に分類、収録したもので、医薬品・
 化粧品等の製造・販売業の必携書です。